

# 岡山県感染症週報 2018年 第30週 (7月23日～7月29日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

## ◆2018年 第30週 (7/23～7/29) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第28週	5類感染症	百日咳 1名 (乳児 男)
第29週	2類感染症	結核 2名 (80代 男 1名・女 1名)
	5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名 (50代 女)
		梅毒 4名 (20代 男 1名・女 2名、50代 男 1名)
		破傷風 1名 (90代 女)
第30週	2類感染症	結核 2名 (60代 女 1名、80代 女 1名)
	4類感染症	重症熱性血小板減少症候群 1名 (30代 女)
		レジオネラ症 3名 (50代 男 1名、60代 男 1名、70代 男 1名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (90代 男)
		梅毒 1名 (30代 男)
		百日咳 1名 (50代 女)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○感染性胃腸炎は、県全体で 322 名 (定点あたり 6.11 → 5.96 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 57 名 (定点あたり 1.26 → 1.06 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

### 【第31週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157: 50代 女) の発生がありました。(8月1日)

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、2018年第30週まで(～7/29)の累計報告数は26名です。今後も発生がづく可能性があることから、岡山県は「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。例年、同感染症は、6月中旬から8月にかけて発生が多くなります。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。  
また、[感染性胃腸炎](#)は、県全体で 322 名 (定点あたり 6.11 → 5.96 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、美作地域 (8.17 人)、岡山市 (7.57 人)、備前地域 (6.30 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。  
高温多湿になる今の時期は、食中毒病原体による感染性胃腸炎も増加します。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。感染予防の方法については、コラムをご覧ください。
2. [重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) は、第30週に1名の報告がありました。2016年以来2年ぶりの報告となります。SFTSの詳細については、[今週の注目感染症①](#)をご覧ください。
3. [レジオネラ症](#)は、第30週までで48名の報告がありました。レジオネラ症の報告は、全国的にも近年増加傾向にあります。岡山県では2013年から横ばい傾向でしたが、2018年第30週までで2017年の1年間の累計報告数(30名)をすでに超えています。レジオネラ症の詳細については、[今週の注目感染症②](#)をご覧ください。
4. [梅毒](#)は、第30週までで96名の報告がありました。梅毒患者の報告数が急増した昨年の同時期(92名)と同様、多くの患者が報告されています。中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代および20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。梅毒の詳細については、コラムをご覧ください。

5. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で57名（定点あたり1.26→1.06人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、倉敷市（1.73人）、美作地域（1.67人）、岡山市（1.14人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
6. **百日咳**は、第30週までで96名の報告がありました。年代別では小学生（41名）、中学生（15名）が多いですが、20歳以上の大人でも、24名の報告がありました。地域別では、倉敷市（29名）、岡山市および備中地域（28名）の順に報告数が多くなっています。
- 予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『**咳エチケット**』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。

### 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★★
感染性胃腸炎	➡	★★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少  
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）  
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

## 今週の注目感染症①

### ★重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

SFTSは、2011年に中国で初めて特定された、新しいウイルス（SFTSウイルス：ブニヤウイルス科フレボウイルス属）によって引き起こされる感染症です。

病原体を保有するマダニ（フタトゲチマダニ等）に咬まれることで感染します。全国では、2013年から2018年7月25日までに368例の患者が報告されており、マダニの活動が活発化する5月の発症例が最も多く、次いで6月～8月が多くなっていますが、温暖な地域では冬にも患者発生があります。岡山県では2013年～2017年に5例の報告がありましたが、いずれも5月～7月の間に発生しています。

症状は、咬まれてから6日～2週間後に発熱、倦怠感、食欲低下、消化器症状などが現れ、血小板や白血球が減少し、重症の場合は、肝腎障害や多臓器不全を来して死に至ることもあります。現時点で有効なワクチン、治療法はありません。

SFTSは、マダニからの感染が一般的ですが、SFTSを発症した動物からも感染するおそれがあります。ペットに対するダニ対策を行うとともに野生動物との接触は避け、動物に触った後は、必ず手洗いをするなど感染予防に努めましょう。（2017年に、SFTSを発症したネコやイヌからヒトに感染し、発症したと疑われる事例が国内で確認されています。）

※くわしくはこちらをご覧ください ⇒ [感染症発生動向調査で届出られたSFTS症例の概要\(国立感染症研究所\)](#)

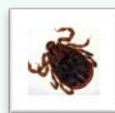
# ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

## 野外で活動する場合、以下のことに気をつけましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。

これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもあります。

春から秋（3～11月）にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。



吸血前の  
フタゲチマダニ♀



吸血後

画像：岡山県環境保健センター

### 【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤（ディートやイカリジンを含むもの）を噴霧しましょう。（虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。）
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

### 【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎容易に取り除くことができる場合（2、3日以内）は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。  
なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合（数日以降）は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

### 【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

### ★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A（厚生労働省）](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）](#)

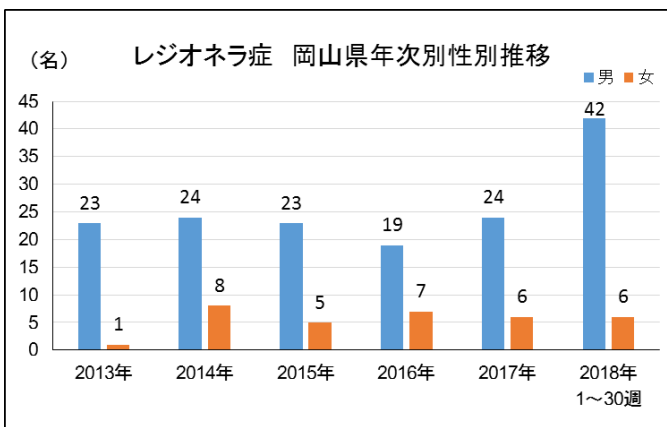
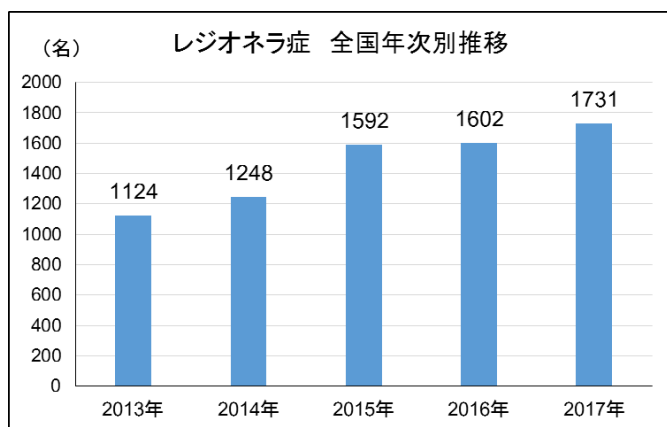
## 今週の注目感染症②

### ★レジオネラ症

レジオネラ症は、レジオネラ・ニューモフィラ (*Legionella pneumophila*) を代表とするレジオネラ属菌が原因で起こる感染症です。レジオネラ属菌は、本来土壌や水環境などの自然環境中に存在している細菌ですが、冷却塔や循環式浴槽を用いている浴場などの人工環境でも、主にアメーバなどを宿主として増殖します。エアロゾル（霧状となった水滴）に含まれる菌を吸引することで感染を起こします。特に糖尿病、悪性腫瘍、人工透析を受けている人や、大酒家などでは肺炎を起こす危険性が高く、注意が必要です。なお、ヒトからヒトへの感染はありません。

#### [発生状況]

近年、患者数は全国的に増加傾向にあります。岡山県では2017年までは患者数は横ばいでしたが、2018年は第30週までで48名と、2017年の総計30名より多く報告されています。男女別では、男性の患者が多く、2013年から2018年第30週までの年齢別類型割合では、50歳代以上で92.0%を占めており、中高年の患者が多く報告されています。



#### [症状・経過]

レジオネラ肺炎が重篤で重要です。また、突然の発熱、悪寒、筋肉痛で始まり、一過性で治癒するポンティアック熱という病型もあります。

レジオネラ肺炎は、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状に始まり、乾いた咳（2～3日後に膿性～赤褐色の痰の咯出）、38℃以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難が見られるようになります。中枢神経系の症状（傾眠、昏睡、幻覚、四肢の振せんなど）や下痢が見られるのも特徴で、早く進行し、重症化することがあります。

#### [検査・治療]

尿中抗原の市販キットによる検出がよく普及しています。治療は、ニューキノロン系の抗菌薬が第一選択となります。早期に有効な抗菌薬での治療を行わないと死に至ることもまれではありません。

※くわしくはこちらをご覧ください ⇒ [「レジオネラ症とは」\(国立感染症研究所\)](#)

### レジオネラ症予防にはマスク着用を！

がれきや泥の撤去作業などで巻き上がった土ぼこりやエアロゾルを吸い込むことにより、レジオネラ症に感染するリスクがあります。適宜マスクを着用するなどし、土ぼこりやエアロゾルを吸い込まないように気をつけましょう。

## 水害時の感染症対策について

### 水害による浸水の後には、感染症発生の恐れがあります！

平成 30 年 7 月に発生した豪雨災害により被害を受けられたみなさまに、心からお見舞いを申し上げます。

災害発生時には、災害に特異的な感染症（破傷風等）や、避難生活や衛生環境により発生する感染症（呼吸器・消化器感染症・動物由来感染症等）への予防対策が必要ですので、次のことを守りましょう。

1. 食物は生で食べないようにして、必ず加熱して食べましょう。
  - 汚水に接触した食品は思い切って捨てましょう。
  - 長時間停電した地域では、冷蔵庫に入っていた食品（特に要冷蔵食品や要冷凍食品）は使用せずに廃棄するようにしてください。
  - 調理器具については、よく洗浄し、煮沸あるいは熱湯消毒をしてから使いましょう。食器については、台所用漂白剤を使用しても良いでしょう。
2. 食事の前、調理の前、用便後は必ず手を洗いましょう。
3. 生水は絶対に飲まないようにしましょう。
  - 浸水した井戸については、水質検査により安全が確認されるまでは使用しないでください。
4. 症状がある場合は、医療機関を受診しましょう。
  - お腹や身体の具合の悪い人は（発熱、下痢など）、早急に医師に診てもらいましょう。

詳細は、以下のホームページをご覧ください。

[水害時の感染症対策と消毒方法、健康対策について（岡山県健康推進課）](#)

[平成 30 年 7 月豪雨における感染症予防について（日本環境感染学会）](#)

[清掃作業をされる方へ 清掃作業時に注意してください（厚生労働省）](#)

## 夏休みに海外へ渡航される方へ

海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。  
海外に渡航される場合には、渡航先の感染症に対する予防対策が必要です。

### 出発前の注意

- ・ 感染症に対する正しい知識と予防に関する方法を身に付けましょう。
- ・ 渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
- ・ これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を検討しましょう。

### 旅行中の注意

- ・ 生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの生乳など、火が通っていないものを飲食することは避けましょう。
- ・ 肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・ 動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。  
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
- ・ 外出後は、しっかり手洗いをしましょう。

### 帰国した後に

- ・ 帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
- ・ 帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

海外へ渡航される方に向けた詳細な感染症情報が厚生労働省のホームページに掲載されています。

[夏休みにおける海外での感染症予防について（厚生労働省）](#)

[ここに注意！ 海外渡航にあたって（厚生労働省検疫所 FORTH）](#)



梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真  
(国立感染症研究所 HP より)

## 夏は開放的な気分になりがちですが・・・ 梅毒（性感染症）に 気をつけましょう！

### ●岡山県で梅毒の患者が急増しています

昨年、岡山県では梅毒患者の報告数が急増しましたが、今年も同様に多くの患者が報告されています。（第30週まで：今年96名、昨年92名）

中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代・20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。

岡山県は全国的にも届出が多く、2018年4月から6月でみると、人口100万人当たりの届出が、大阪府、東京都に次ぎ全国3位（2018年1月から3月と同様）となっています。全国的にも患者は近年増加傾向を示しており、若年者を中心としたまん延が懸念されています。

### ●男女とも早期顕症梅毒が多く、女性では無症候も多くみられます

病型に着目すると、男性では早期顕症Ⅰ期が多く、届出の半数程度を占めています。一方、女性では早期顕症Ⅱ期および無症候で全体の7割以上を占めています。いずれも感染性の高い時期です。

### ●梅毒以外にも注意すべき性感染症があります

性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えばHIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

#### 「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたしますが、進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障害をもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障害をきたします（先天梅毒）。

#### <病型>

早期顕症Ⅰ期：感染後3週間後から病原体侵入部位に硬結（しこり）を生じ次第に潰瘍化し、両そ径部のリンパ節が腫脹します。2～3週間で自然に消退します。

早期顕症Ⅱ期：Ⅰ期消退後3か月後で、バラしん（発しん）、膿胞、外陰部のコンジローマ（扁平腫瘍）、脱毛など3年程度様々な症状を繰り返しながら進行し、晩期梅毒に進んでいきます。

無症候期：Ⅰ期とⅡ期の間やⅡ期の発しん消退後など、梅毒血清反応が陽性ですが、臨床症状は認められない期間です。診断・治療の遅れにつながる可能性があります。

[日本の梅毒症例の動向について（国立感染症研究所）](#)

[ストップ！梅毒（日本性感染症学会）](#)

## ◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

高温多湿になる今の時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎が増加します。  
次の3原則を心がけ、予防に努めましょう。

### ➤ 「清潔」 (菌をつけない)

- ・調理前、食事前、用便後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。

### ➤ 「迅速・冷却」 (菌を増やさない)

- ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。

### ➤ 「加熱」 (菌をやっつける)

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。  
(食肉の生食は避けましょう。)



[食中毒予防の3原則 \(岡山県生活衛生課\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント \(厚生労働省\)](#)

[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中! \(岡山県感染症情報センター\)](#)



保健所別報告患者数 2018年 30週(定点把握)

( 2018/07/23～2018/07/29 )

2018年8月2日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	21	0.39	11	0.79	5	0.45	-	-	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
咽頭結膜熱	15	0.28	6	0.43	1	0.09	-	-	2	0.29	3	0.75	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	16	1.14	19	1.73	3	0.30	6	0.86	2	0.50	1	0.50	10	1.67
感染性胃腸炎	322	5.96	106	7.57	47	4.27	63	6.30	26	3.71	20	5.00	11	5.50	49	8.17
水痘	7	0.13	4	0.29	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	23	0.43	10	0.71	8	0.73	1	0.10	3	0.43	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	21	0.39	3	0.21	5	0.45	4	0.40	4	0.57	1	0.25	-	-	4	0.67
ヘルパンギーナ	32	0.59	11	0.79	3	0.27	2	0.20	3	0.43	1	0.25	-	-	12	2.00
流行性耳下腺炎	9	0.17	3	0.21	1	0.09	3	0.30	1	0.14	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	3	0.60	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

## 保健所別報告患者数 2018年 30週(発生レベル設定疾患)

( 2018/07/23～2018/07/29 )

2018年8月2日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	15	0.28	6	0.43	1	0.09	-	-	2	0.29	3	0.75	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	16	1.14	19	1.73	3	0.30	6	0.86	2	0.50	1	0.50	10	1.67
感染性胃腸炎	322	5.96	106	7.57	47	4.27	63	6.30	26	3.71	20	5.00	11	5.50	49	8.17
水痘	7	0.13	4	0.29	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	23	0.43	10	0.71	8	0.73	1	0.10	3	0.43	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	32	0.59	11	0.79	3	0.27	2	0.20	3	0.43	1	0.25	-	-	12	2.00
流行性耳下腺炎	9	0.17	3	0.21	1	0.09	3	0.30	1	0.14	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	3	0.60	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2018年 第30週 2018/07/23～2018/07/29 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	21	7	7	4	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	15	-	3	2	2	1	1	1	-	-	2	-	1	1	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	-	-	3	4	4	9	6	8	4	5	6	4	-	4
感染性胃腸炎	322	8	30	60	27	29	18	18	16	14	2	8	40	10	42
水痘	7	1	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	2	-	-
手足口病	23	1	2	9	2	3	-	1	1	2	-	2	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
突発性発疹	21	-	4	12	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	32	-	5	6	8	4	2	-	3	2	2	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	9	-	-	-	-	2	2	1	2	-	-	-	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	5	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

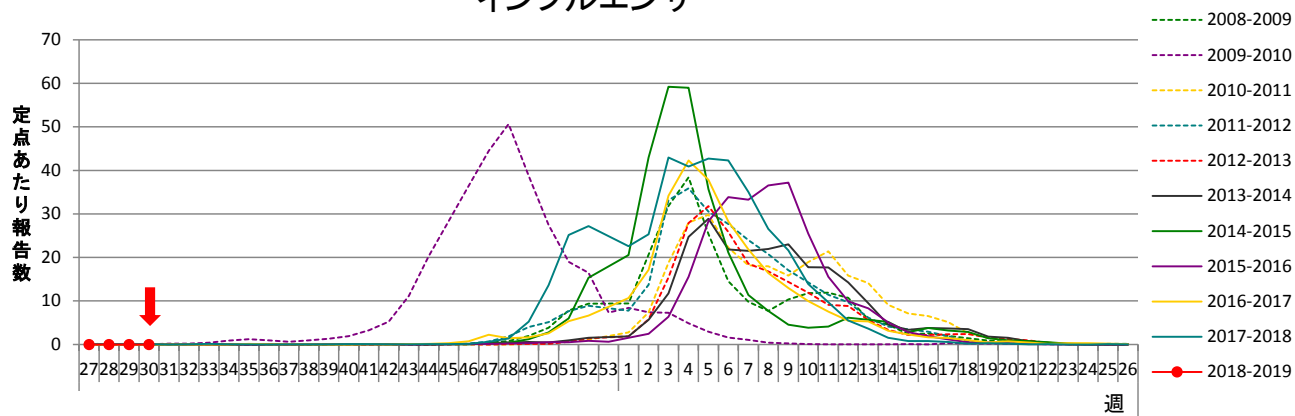
( - : 0 )

# 全数把握 感染症患者発生状況

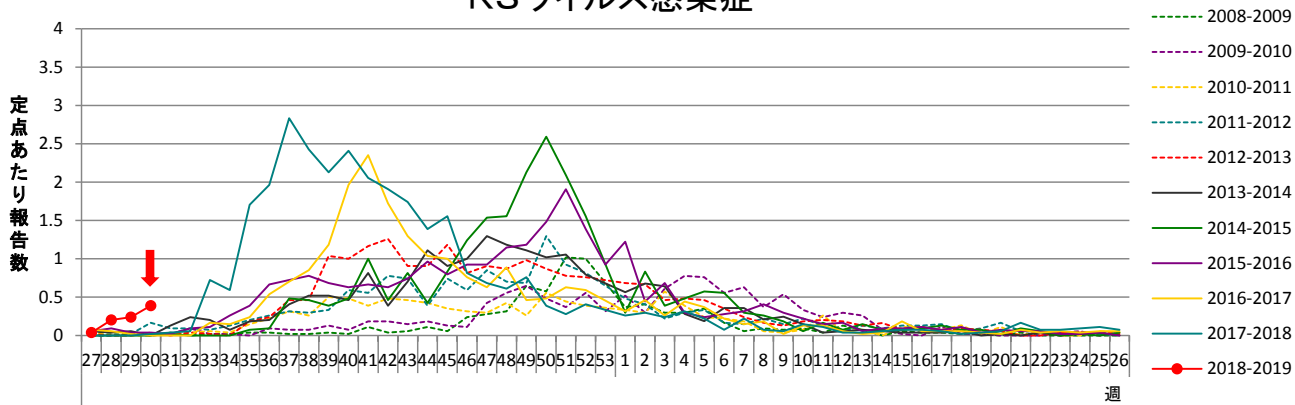
2018年 30週

分類	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	187	370	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	-	3	腸管出血性大腸菌感染症	-	26	70
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	1	1	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	4	7
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	3	48	30
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	12	22	ウイルス性肝炎	-	4	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	12
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	-	急性脳炎	-	4	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	12	9	後天性免疫不全症候群	-	10	22
ジアルジア症		-	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	30	36	水痘(入院例に限る。)	-	2	6	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		1	96	172	播種性クリプトコックス症	-	2	1	破傷風	-	1	-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	百日咳	1	96	-
風しん		-	-	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

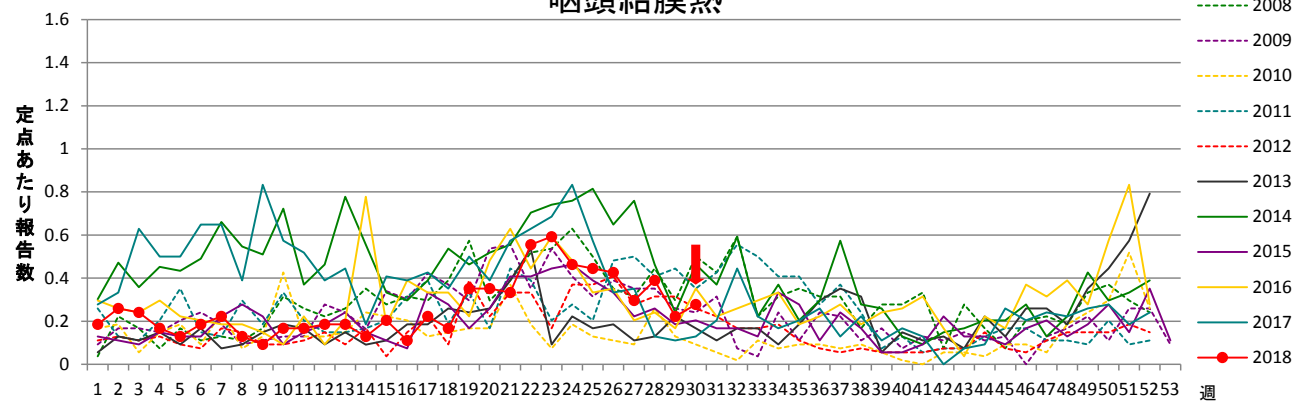
### インフルエンザ



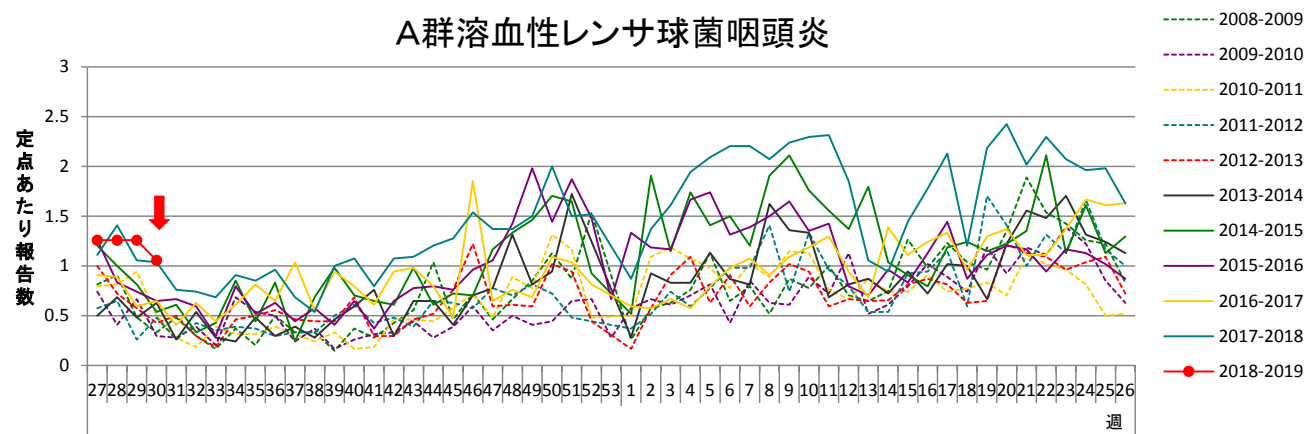
### RSウイルス感染症



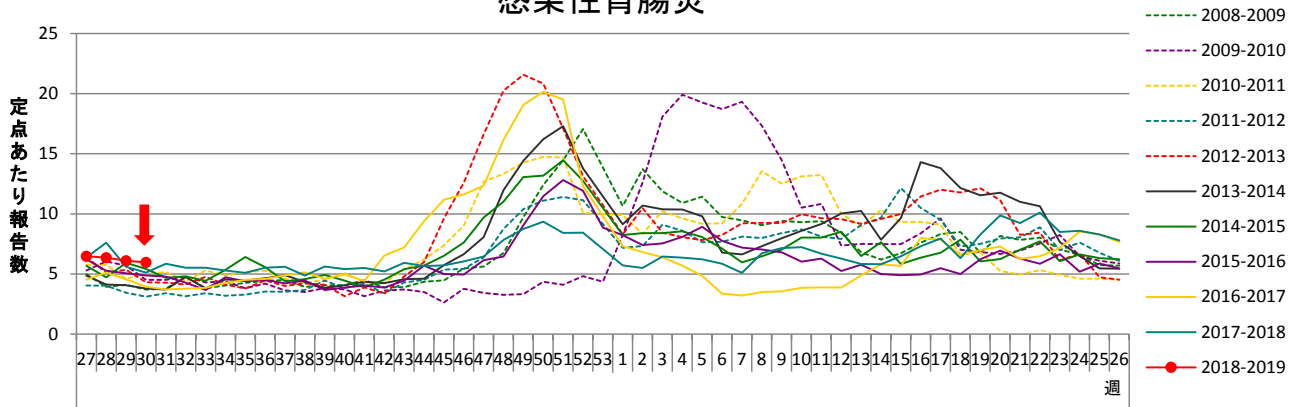
### 咽頭結膜熱



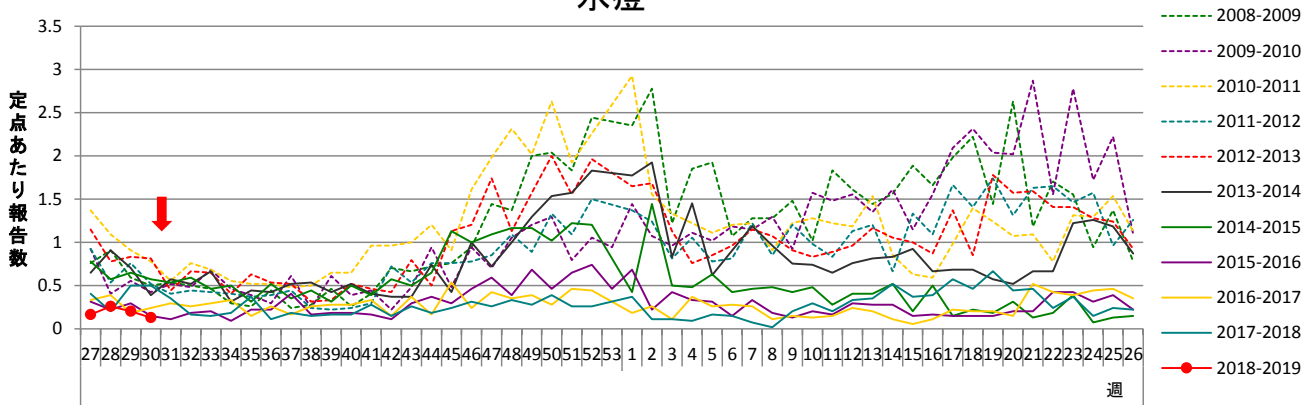
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



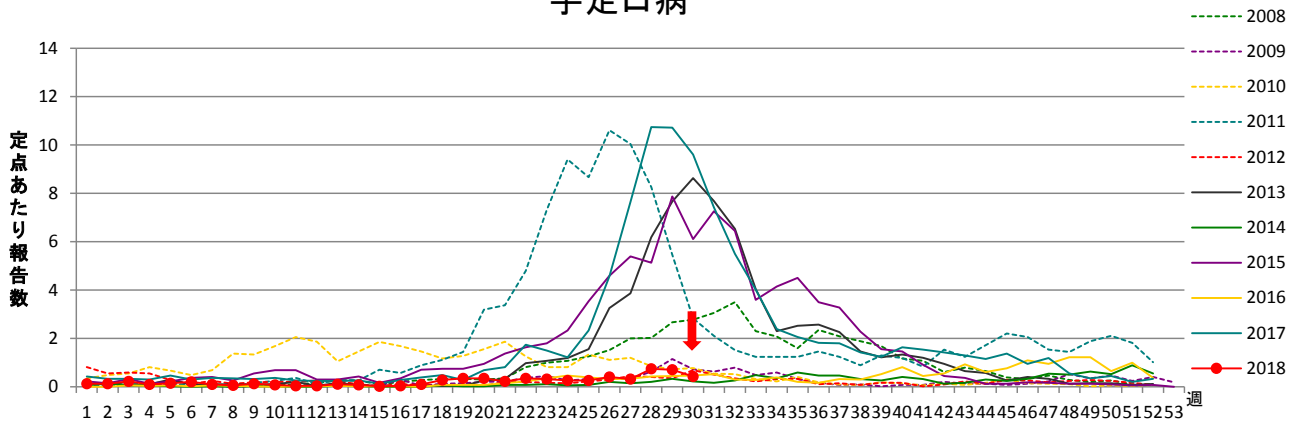
### 感染性胃腸炎



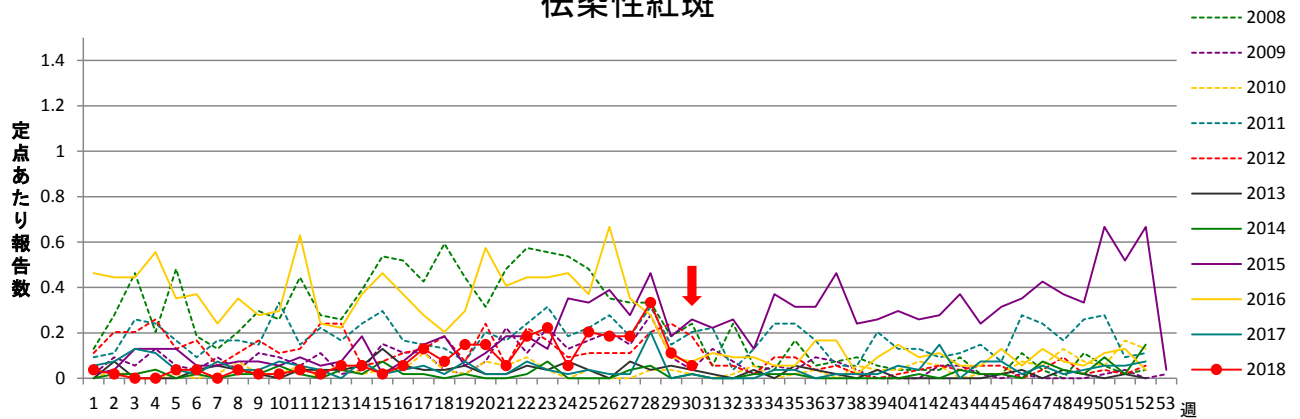
### 水痘



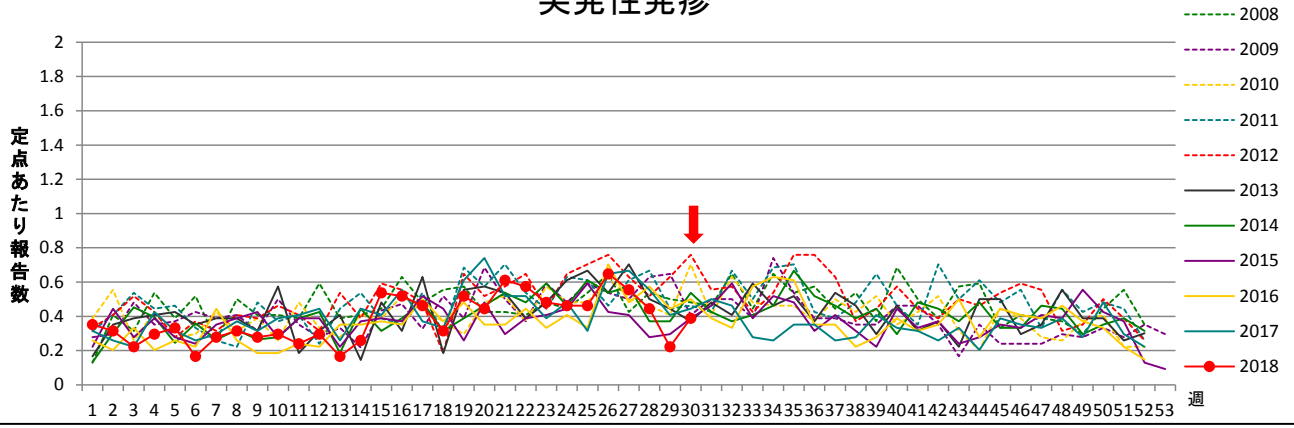
### 手足口病



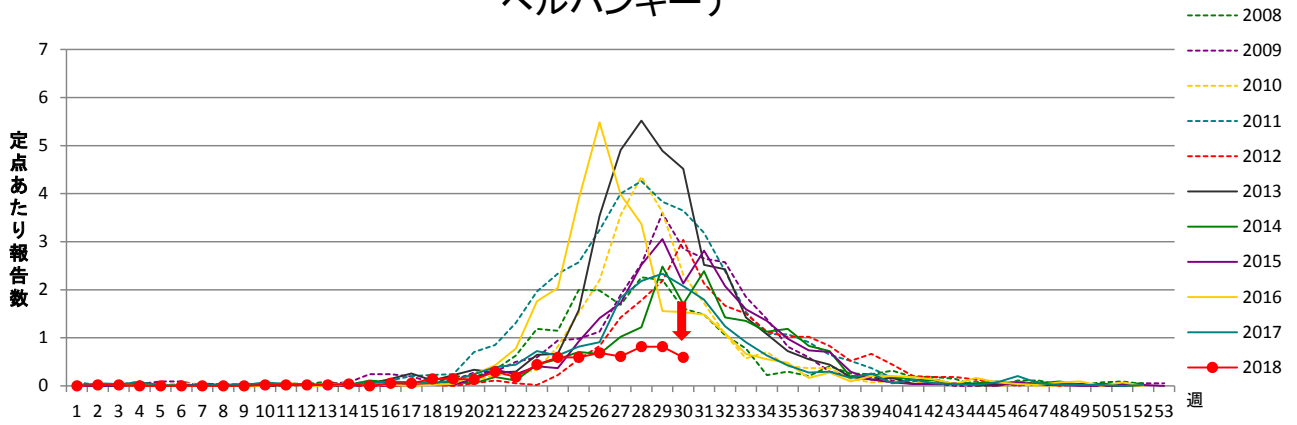
### 伝染性紅斑



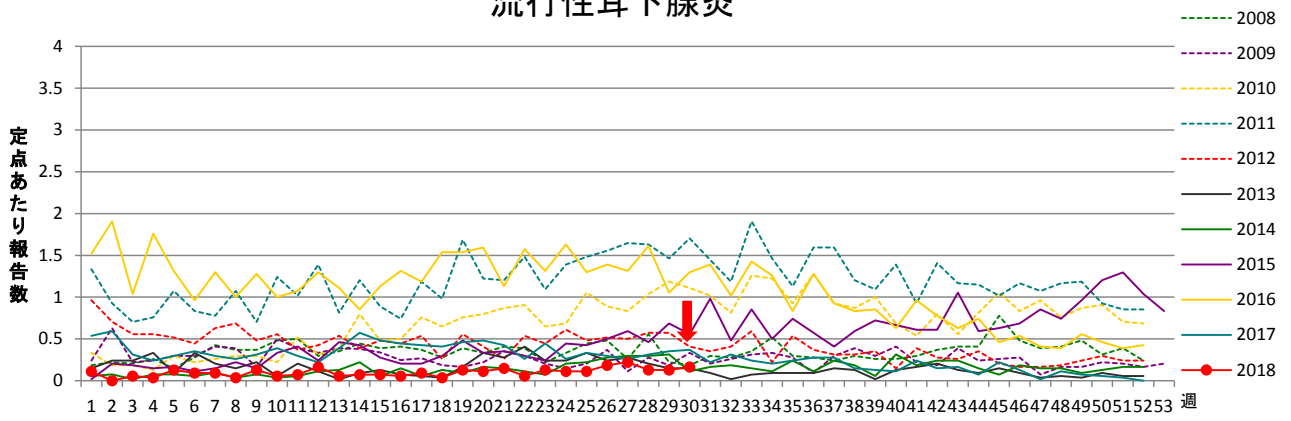
### 突発性発疹



### ヘルパンギーナ



### 流行性耳下腺炎



### 急性出血性結膜炎

